

Ⅲ一 ii 理学療法学分野

運動解析学特論	1
運動解析学特論演習	3
運動生理学特論	6
運動生理学特論演習	9
運動機能理学療法学特論	12
運動機能理学療法学特論演習	16
神経機能理学療法学特論	20
神経機能理学療法学特論演習	22
運動障がいリハビリテーション学特論	25
運動障がいリハビリテーション学特論演習	27
理学療法学特別研究	30

授業科目	運動解析学特論	科目英語表記	Movement Science in Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	准教授 南澤 忠儀				
科目責任者氏名	南澤 忠儀				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	生体信号の計測及びデータ処理の方法について学ぶ				
到達目標	①計測データの処理方法について説明できる ②計測データの解析方法について説明できる ③生体信号に対してより適切な信号処理および解析を実施できる				
成績評価方法	課題レポート100%				
成績評価基準	特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				
授業形式	遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	生体信号の基礎①	文献抄読を行ない、生体信号の解析方法の具体的手順や潮流を確認する	講義	予習課題 事前に配布する資料を熟読する	南澤忠儀
2	生体信号の基礎②	文献抄読を行ない、生体信号の解析方法の具体的手順や潮流を確認する	講義	予習課題 事前に配布する資料を熟読する	南澤忠儀
3	生体信号の基礎③	文献抄読を行ない、生体信号の解析方法の具体的手順や潮流を確認する	講義／演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読する	南澤忠儀
4	フィルター処理①	ローパスフィルター、ハイパスフィルター、バンドパスフィルターの各種フィルター処理について学習する	講義／演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読する	南澤忠儀
5	フィルター処理②	ローパスフィルター、ハイパスフィルター、バンドパスフィルターの各種フィルター処理について学習する	講義／演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読する 復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀
6	フィルター処理③	ローパスフィルター、ハイパスフィルター、バンドパスフィルターの各種フィルター処理について学習する	講義／演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読する 復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀
7	フィルター処理④	ヒルベルト変換	講義／演習	復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀
8	生体信号解析法①	周波数解析(高速フーリエ変換)	講義／演習	復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀

9	生体信号解析法②	周波数解析(連続ウェーブレット変換)	講義/演習	復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀
10	生体信号解析法③	相関関数解析(ACF, CCF)	講義/演習	復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀
11	生体信号解析法④	周波数解析(連続ウェーブレット変換)	講義/演習	復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀
12	生体信号解析法⑤	周波数解析(クロススペクトル解析, コヒーレンス解析)	講義/演習	復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀
13	データの処理および解析の演習①	生体信号に対して, 各種処理及び解析法を適用してデータに対する最適な処理方法を検討する	講義/演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読する	南澤忠儀
14	データの処理および解析の演習②	生体信号に対して, 各種処理及び解析法を適用してデータに対する最適な処理方法を検討する	講義/演習	復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀
15	データの処理および解析の演習③	生体信号に対して, 各種処理及び解析法を適用してデータに対する最適な処理方法を検討する	講義/演習	復習課題 授業終了時に示す課題についてレポート作成する	南澤忠儀

日付

毎週月曜日 7 限目

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	南澤 18研究室; tminamisawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	運動解析学特論演習	科目英語表記	Applied Movement Science in Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	准教授 南澤 忠儀				
科目責任者氏名	南澤 忠儀				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	単一または複数の計測器を使用して動作の計測を行いそれぞれの生体信号を組み合わせた多角的な分析を行なう。				
到達目標	①機器を使用した生体信号の処理・解析を通じて様々な信号処理の方法論を説明できる。 ②機器を使用した生体信号の処理・解析を実施できる。				
成績評価方法	課題レポート 100%				
成績評価基準	特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて実施できる 優れている；根拠をふまえて実施できる 良好である；根拠を用いてある程度実施できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度実施できる 目標に到達していない；実施できない				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	生体信号のリサンプリング法に関する演習①	リサンプリング法などの信号処理方法を習得して、複数機器による実験データの同期方法を学ぶ	講義, 演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読すること	南澤忠儀
2	生体信号のリサンプリング法に関する演習②	リサンプリング法などの信号処理方法を習得して、複数機器による実験データの同期方法を学ぶ	講義, 演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読すること	南澤忠儀
3	生体信号のリサンプリング法に関する演習③	リサンプリング法などの信号処理方法を習得して、複数機器による実験データの同期方法を学ぶ	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
4	生体信号のリサンプリング法に関する演習④	リサンプリング法などの信号処理方法を習得して、複数機器による実験データの同期方法を学ぶ	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
5	生体信号のリサンプリング法に関する演習⑤	リサンプリング法などの信号処理方法を習得して、複数機器による実験データの同期方法を学ぶ	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
6	心電図・床反力計の同期計測と解析①	心電図計と床反力計を使用して、相互相関関数解析およびコヒーレンス解析を行ない、心拍変動による身体動揺への影響を床反力計によって分析する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
7	心電図・床反力計の同期計測と解析②	心電図計と床反力計を使用して、相互相関関数解析およびコヒーレンス解析を行ない、心拍変動による身体動揺への影響を床反力計によって分析する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀

8	心電図・床反力計の同期計測と解析③	心電図計と床反力計を使用して、相互相関関数解析およびコヒーレンス解析を行ない、心拍変動による身体動揺への影響を床反力計によって分析する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
9	心電図・床反力計の同期計測と解析④	心電図計と床反力計を使用して、相互相関関数解析およびコヒーレンス解析を行ない、心拍変動による身体動揺への影響を床反力計によって分析する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
10	心電図・床反力計の同期計測と解析⑤	心電図計と床反力計を使用して、相互相関関数解析およびコヒーレンス解析を行ない、心拍変動による身体動揺への影響を床反力計によって分析する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
11	脳波・筋電図の同期計測と解析①	歩行中の脳波一筋電図コヒーレンス解析およびクロススペクトル解析について学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
12	脳波・筋電図の同期計測と解析②	歩行中の脳波一筋電図コヒーレンス解析およびクロススペクトル解析について学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
13	脳波・筋電図の同期計測と解析③	歩行中の脳波一筋電図コヒーレンス解析およびクロススペクトル解析について学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
14	脳波・筋電図の同期計測と解析④	歩行中の脳波一筋電図コヒーレンス解析およびクロススペクトル解析について学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
15	脳波・筋電図の同期計測と解析⑤	歩行中の脳波一筋電図コヒーレンス解析およびクロススペクトル解析について学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
16	三次元動作解析装置・筋電図の同期計測と解析①	運動力学的指標と神経学的指標を組み合わせた分析方法を学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
17	三次元動作解析装置・筋電図の同期計測と解析②	運動力学的指標と神経学的指標を組み合わせた分析方法を学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
18	三次元動作解析装置・筋電図の同期計測と解析③	運動力学的指標と神経学的指標を組み合わせた分析方法を学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
19	三次元動作解析装置・筋電図の同期計測と解析④	運動力学的指標と神経学的指標を組み合わせた分析方法を学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
20	三次元動作解析装置・筋電図の同期計測と解析⑤	運動力学的指標と神経学的指標を組み合わせた分析方法を学習する	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
21	課題演習①	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
22	課題演習②	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
23	課題演習③	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
24	課題演習④	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
25	課題演習⑤	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
26	課題演習⑥	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀

27	課題演習⑦	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
28	課題演習⑧	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
29	課題演習⑨	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀
30	課題演習⑩	各種解析方法を使用した演習を行なう	講義, 演習	復習課題 課題レポートを作成する	南澤忠儀

日付

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	南澤 ; tminamisawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	運動生理学特論		科目英語表記	Exercise Physiology		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 教授 蓬田 伸一					
科目責任者氏名	赤塚 清矢					
学内連絡教員氏名						
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位	
授業概要	<p>赤塚 運動負荷による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動について、論文を教材として講義・討議する。</p> <p>蓬田 運動を担う骨格筋や神経系をはじめ、骨や関節などは全て細胞から出来ている。運動負荷による細胞機能変化やその変化が人体に与える影響についての基礎知識を、最近の英語論文等を教材として講義・討議する。</p>					
到達目標	<p>赤塚 ①運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動について理解できる。</p> <p>蓬田 ②運動が生体を構成する細胞にどのような負荷を与えるか理解できる。 ③細胞内の情報伝達系の変化が生体に与える影響について理解できる。</p>					
成績評価方法	講義中の討議への参加度（20%）、講義内容の理解度（20%）、課題レポート（60%）にて到達目標①②③を総合的に評価。					
成績評価基準	<p>到達目標①②③ 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている ; 根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である ; 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達 ; 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない ; 説明できない</p>					
授業形式	対面授業を基本とするが、状況により遠隔授業により実施する。					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動①	運動と呼吸、循環、代謝機能および自律神経活動に関する文献抄読 運動と呼吸、循環、代謝機能および自律神経活動の計測方法 機器を使用した計測	講義と討論	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚	
2	運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動②	運動と呼吸、循環、代謝機能および自律神経活動に関する文献抄読 運動と呼吸、循環、代謝機能および自律神経活動の計測方法 機器を使用した計測	講義と討論	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚	
3	運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動③	運動と呼吸、循環、代謝機能および自律神経活動に関する文献抄読 運動と呼吸、循環、代謝機能および自律神経活動の計測方法 機器を使用した計測	講義と討論	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚	
4	運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動④	運動と呼吸、循環、代謝機能および自律神経活動に関する文献抄読 運動と呼吸、循環、代謝機能	講義と討論	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚	

		および自律神経活動の計測方法 機器を使用した計測			
5	運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動⑤	運動と呼吸、循環、代謝機能 および自律神経活動に関する 文献抄読 運動と呼吸、循環、代謝機能 および自律神経活動の計測方法 機器を使用した計測	講義と討論	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
6	運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動⑥	運動と呼吸、循環、代謝機能 および自律神経活動に関する 文献抄読 運動と呼吸、循環、代謝機能 および自律神経活動の計測方法 機器を使用した計測	講義と討論	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
7	運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動⑦	運動と呼吸、循環、代謝機能 および自律神経活動に関する 文献抄読 運動と呼吸、循環、代謝機能 および自律神経活動の計測方法 機器を使用した計測	講義と討論	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
8	運動による呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動⑧	運動と呼吸、循環、代謝機能 および自律神経活動に関する 文献抄読 運動と呼吸、循環、代謝機能 および自律神経活動の計測方法 機器を使用した計測	講義と討論	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
9	運動による生体機能変化が細胞機能に与える影響①	細胞の基本的な機能	講義と討議	指定する教科書の該当ページ または配布資料について学修する	蓬田
10	運動による生体機能変化が細胞機能に与える影響②	細胞の機能と情報伝達 (1)	講義と討議	指定する教科書の該当ページ または配布資料について学修する	蓬田
11	運動による生体機能変化が細胞機能に与える影響③	細胞の機能と情報伝達 (2)	講義と討議	指定する教科書の該当ページ または配布資料について学修する	蓬田
12	運動による生体機能変化が細胞機能に与える影響④	細胞の刺激応答 (1)	講義と討議	指定する教科書の該当ページ または配布資料について学修する	蓬田
13	運動による生体機能変化が細胞機能に与える影響⑤	細胞の刺激応答 (2)	講義と討議	指定する教科書の該当ページ または配布資料について学修する	蓬田
14	運動による生体機能変化が細胞機能に与える影響⑥	筋・神経・骨・軟骨の細胞生理学	講義と討議	指定する教科書の該当ページ または配布資料について学修する	蓬田
15	運動による生体機能変化が細胞機能に与える影響⑦	細胞機能変化が生体に与える影響	講義と討議	指定する教科書の該当ページ または配布資料について学修する	蓬田
日付					
後日連絡					

教科書	授業中に紹介・配布する。
参考書	授業中に紹介・配布する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のあ	

る教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	赤塚清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 蓬田伸一：研究室16 syomogida@yachts.ac.jp
備考	履修上の注意 実施日程は、受講者と協議して決定する。(集中講義を基本とする)

授業科目	運動生理学特論演習	科目英語表記	Applied Exercise Physiology		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 教授 蓬田 伸一				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	赤塚 運動時の呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動を測定して、運動刺激に対する生体応答について討議する。 蓬田 運動生理学特論をもとに、刺激による細胞機能変化を様々な測定法により可視化・数値化し、それらの変化が人体に及ぼす影響について討議する。				
到達目標	赤塚 ①測定した呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動より、運動刺激に対する生体応答について説明できる。 蓬田 ②様々な手法により測定した細胞内情報が細胞機能変化にどのように結びつくのか説明できる。 ③細胞の機能変化が生体に及ぼす影響について推定できる。				
成績評価方法	仮説を立て、何を測定すればその仮説が証明できるかを考え（50%）、実際に仮説を証明するための測定を行い、一定の結果が得られるか（50%）にて、到達目標①②③を総合的に評価。				
成績評価基準	到達目標①②③ 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている ; 根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である ; 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達 ; 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない ; 説明できない				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	運動による生体応答①	・呼気ガス分析装置、心肺運動負荷試験装置、心電計の説明	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
2	運動による生体応答②	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
3	運動による生体応答③	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
4	運動による生体応答④	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
5	運動による生体応答⑤	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
6	運動による生体応答⑥	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚

7	運動による生体応答 ⑦	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
8	運動による生体応答 ⑧	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
9	運動による生体応答 ⑨	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	演習と実技指導	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
10	運動による生体応答 ⑩	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
11	運動による生体応答 ⑪	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
12	運動による生体応答 ⑫	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
13	運動による生体応答 ⑬	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
14	運動による生体応答 ⑭	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
15	運動による生体応答 ⑮	・運動負荷における呼吸、循環および代謝機能と自律神経活動の測定 ・データの解析と考察	講義と演習	授業で示す課題についてレポートを作成する	赤塚
16	刺激に対する細胞応答①	運動負荷が細胞に与える影響	講義	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
17	刺激に対する細胞応答②	運動負荷が細胞に与える影響	講義と演習	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
18	刺激に対する細胞応答③	運動負荷が細胞に与える影響	講義	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
19	刺激に対する細胞応答④	運動負荷が細胞に与える影響	講義と演習	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
20	刺激に対する細胞応答⑤	運動負荷が細胞に与える影響	講義	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
21	刺激に対する細胞応答⑥	運動負荷が細胞に与える影響	講義と演習	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
22	生化学的手法の導入 ①	生化学的手法を導入する意義	講義	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
23	生化学的手法の導入 ②	生化学的手法を導入する意義	講義と演習	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
24	生化学的手法の導入 ③	生化学的手法を導入する意義	講義	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内	蓬田

				容を確認する。	
25	生化学的手法の導入 ④	生化学的手法を導入する意義	講義と演習	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
26	生化学的手法の導入 ⑤	生化学的手法を導入する意義	講義	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
27	生化学的手法の導入 ⑥	生化学的手法を導入する意義	講義と演習	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
28	測定結果の解析と評価①	生化学的手法で得られた結果の評価	講義	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
29	測定結果の解析と評価②	生化学的手法で得られた結果の評価	講義と演習	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
30	測定結果の解析と評価③	生化学的手法で得られた結果の評価	講義と演習	講義内容に関連する領域について最近の論文を検索し、内容を確認する。	蓬田
日付					
後日連絡					

教科書	授業中に紹介・配布する。
参考書	授業中に紹介・配布する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	赤塚清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 蓬田伸一：研究室16 syomogida@yachts.ac.jp
備考	実施日程は、受講者と協議して決定する。(集中講義を基本とする)

授業科目	運動機能理学療法学特論	科目英語表記	Physical Therapy in Musculoskeletal and Respiratory Function		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩				
科目責任者氏名	加藤 浩				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	運動機能障がいに対する客観的評価方法や効果的な介入方法、および理学療法分野における課題について情報収集を行い議論する。運動器の理学療法に関する種々の研究論文を読み、批判的吟味を行う。				
到達目標	① 運動機能障がいに対する理学療法に関する国内外の最新の情報を収集することができる。 ② 高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法に関する最新情報を収集することができる。 ③ 運動機能障がいに対する理学療法、および高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法の国内外の現状と課題、および研究方法を説明することができる。				
成績評価方法	課題レポート：100% [到達目標 ①, ②, ③, ④を評価]				
成績評価基準	到達目標 ①, ②, ③, ④ 特に優れている : 課題内容の理解, 論理構成, 表現, 国内外雑誌の引用が十分整ったレポートを作成することができる。 優れている : 課題内容の理解, 論理構成, 表現, 国内外雑誌の引用が概ね整ったレポートを作成することができる。 良好である : 課題内容の理解, 論理構成, 表現, 国内外雑誌の引用がある程度整ったレポートを作成することができる。 最低限の到達 : 課題内容の理解, 論理構成, 表現, 国内外雑誌の引用が一部不十分だが, レポートを作成することができる。 目標に到達していない : レポートの作成ができない。				
授業形式	授業は遠隔授業で行います。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	運動機能障がいに対する理学療法評価の最新エビデンス①	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する新しい評価方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。 復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。	加藤 浩
2	運動機能障がいに対する理学療法評価の最新エビデンス②	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する新しい評価方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。 復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。	加藤 浩
3	運動機能障がいに対する理学療法評価の最新エビデンス③	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する新しい評価方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。 復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。	加藤 浩

4	運動機能障がいに対する理学療法評価の最新エビデンス④	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する新しい評価方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	加藤 浩
5	運動機能障がいに対する理学療法評価の最新エビデンス⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する新しい評価方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	加藤 浩
6	運動機能障がいに対する理学療法介入効果の最新エビデンス①	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する効果的な介入方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べること。</p>	加藤 浩
7	運動機能障がいに対する理学療法介入効果の最新エビデンス②	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する効果的な介入方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べること。</p>	加藤 浩
8	運動機能障がいに対する理学療法介入効果の最新エビデンス③	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する効果的な介入方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	加藤 浩
9	運動機能障がいに対する理学療法介入効果の最新エビデンス④	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する効果的な介入方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	加藤 浩
10	運動機能障がいに対する理学療法介入効果の最新エビデンス⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障がいに対する効果的な介入方法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p>	加藤 浩

				<p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	
11	高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法の最新エビデンス①	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	加藤 浩
12	高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法の最新エビデンス②	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べること。</p>	加藤 浩
13	高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法の最新エビデンス③	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	加藤 浩
14	高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法の最新エビデンス④	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	加藤 浩
15	高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法の最新エビデンス⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期運動機能障がいに対する予防理学療法に関する文献をレビューし発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義（議論型）	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べ課題レポートを提出する。</p>	加藤 浩
日付					

教科書	
参考書	授業に必要な資料は、適宜、配布、または指示する。
ディプロマ・ポリシーとの	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3

関連	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩：研究室36 hikato@yachts.ac.jp
備考	講義日程は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。

授業科目	運動機能理学療法学特論演習	科目英語表記	Applied Physical Therapy in Musculoskeletal and Respiratory Function		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩				
科目責任者氏名	加藤 浩				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	① 運動器理学療法の研究においてよく使用される客観的評価方法について、実践能力を修得するための演習を行う。 ② 三次元動作解析装置Viconによる計測、Bodybuilderによる動作解析を演習形式で学ぶ。 ③ 国内外の文献収集と討議および客観的評価法の演習を通して、特別研究に向けた具体的な研究手法を探る。				
到達目標	① 光学式・慣性式モーションキャプチャーシステムを用いた運動学、運動力学評価方法について説明することができる。 ② 表面筋電図を用いた電気生理学的評価方法について説明することができる。 ③ 博士前期課程の研究に関連した海外の最新の情報を収集し、批判的吟味を行うことができる。 ④ 研究目的に合致した研究方法を立案することができる。				
成績評価方法	課題レポート：100% [到達目標 ①, ②, ③, ④を評価]				
成績評価基準	到達目標 ①, ②, ③, ④を評価 特に優れている : 課題内容を理解し、論理構成、表現、国内外雑誌の引用が十分整ったレポートを作成することができる。 優れている : 課題内容を理解し、論理構成、表現、国内外雑誌の引用が概ね整ったレポートを作成することができる。 良好である : 課題内容を理解し、論理構成、表現、国内外雑誌の引用がある程度整ったレポートを作成することができる。 最低限の到達 : 課題内容を理解し、論理構成、表現、国内外雑誌の引用が一部不十分だが、レポートを作成することができる。 目標に到達していない : レポートの作成ができない。				
授業形式	授業は遠隔授業で行います。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	Bodybuilderの概念	演算処理ソフト“BodyBuilder”の概念について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
2	仮想マーカーの作成	BodyBuilderを用いた仮想マーカーの作成方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
3	重心・関節角度の計算	BodyBuilderを用いた重心・関節角度の計算方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
4	関節モーメントの計算	BodyBuilderを用いた関節モーメントの計算方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
5	関節パワーの計算	BodyBuilderを用いた関節パワーの計算方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
6	慣性センサーを用いたデータ計測①	慣性センサーの概要と、慣性センサーを用いたデータ計測の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩

7	慣性センサーを用いたデータ計測②	慣性センサーを用いたデータ計測の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
8	慣性センサーを用いたデータ処理①	慣性センサーを用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
9	慣性センサーを用いたデータ処理②	慣性センサーを用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
10	慣性センサーを用いたデータ処理③	慣性センサーを用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
11	表面筋電図計を用いたデータ計測①	表面筋電図の概要と、表面筋電図を用いたデータ計測の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
12	表面筋電図計を用いたデータ計測②	表面筋電図を用いたデータ計測の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
13	表面筋電図計を用いたデータ処理①	表面筋電図を用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
14	表面筋電図計を用いたデータ処理②	表面筋電図を用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
15	表面筋電図計を用いたデータ処理③	表面筋電図を用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
16	三次元動作解析装置を用いたデータ計測①	三次元動作解析装置の概要と、三次元動作解析装置を用いたデータ計測の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
17	三次元動作解析装置を用いたデータ計測②	三次元動作解析装置を用いたデータ計測の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
18	三次元動作解析装置を用いたデータ処理①	三次元動作解析装置を用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩
19	三次元動作解析装置を用いたデータ処理②	三次元動作解析装置を用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	加藤 浩

20	三次元動作解析装置を用いたデータ処理③	三次元動作解析装置を用いたデータ処理の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
21	研究方法の立案①	国内外の文献収集の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
22	研究方法の立案②	文献の批判的吟味の方法について演習を交えながら講義する。	講義（聴講型） 演習	復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
23	研究方法の立案③	適切な実験・調査方法の立て方について講義する。	講義（聴講型）	復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
24	研究方法の立案④	根拠のある仮説の設定の仕方について講義する。	講義（聴講型）	復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
25	研究方法の立案⑤	適切な統計手法の選択の仕方について講義する。	講義（聴講型）	復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
26	抄読会①	・バイオメカニクス分野の論文を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自でバイオメカニクスに関する論文を選び，内容を整理した発表スライドを準備する。 復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
27	抄読会②	・バイオメカニクス分野の論文を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自でバイオメカニクスに関する論文を選び，内容を整理した発表スライドを準備する。 復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
28	抄読会③	・バイオメカニクス分野の論文を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自でバイオメカニクスに関する論文を選び，内容を整理した発表スライドを準備する。 復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べる。	加藤 浩
29	抄読会④	・バイオメカニクス分野の論文を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自でバイオメカニクスに関する論文を選び，内容を整理した発表スライドを準備する。 復習課題 授業の内容を振り返り，指摘	加藤 浩

				された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べる。	
30	抄読会⑤	・バイオメカニクス分野の論文を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自でバイオメカニクスに関する論文を選び、内容を整理した発表スライドを準備する。 復習課題 自身の研究課題をテーマとした課題レポートを提出する。	加藤 浩
日付					

教科書	
参考書	授業に必要な資料は、適宜、配布、または、指示する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩 : 研究室36 hikato@yachts.ac.jp
備考	講義日程は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。

授業科目	神経機能理学療法学特論	科目英語表記	Physical Therapy in Neuromuscular Function		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 講師 鈴木栄三郎				
科目責任者氏名	鈴木 克彦				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期 1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	神経機能障がいを理解するために神経生理学的評価の基礎知識を教授する 神経生理学的評価から得られた情報を基にした神経機能障がいに対する理学療法についても教授する				
到達目標	1. 神経機能障がいを理解するための神経生理学的評価について説明することができる 2. 神経機能障がいの理学療法のための仮説検証過程（評価・仮説・治療）を説明することができる				
成績評価方法	レポート 50% 到達目標 1、2 を評価 参加度 50% 到達目標 1、2 を評価				
成績評価基準	特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				
授業形式	対面授業（遠方の場合は遠隔授業）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	神経生理学的評価の基礎知識	経頭蓋磁気刺激（MEP・SICI・ICFなど）①	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
2		経頭蓋磁気刺激（MEP・SICI・ICFなど）②	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
3		経頭蓋磁気刺激（MEP・SICI・ICFなど）③	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
4		誘発筋電図（H反射・M波・F波など）①	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
5		誘発筋電図（H反射・M波・F波など）②	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
6		誘発筋電図（H反射・M波・F波など）③	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
7		脳波（SEPなど）①	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
8		脳波（SEPなど）②	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
9		脳波（SEPなど）③	講義	電気生理学基礎の復習	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
10	神経生理学的評価に基づく理学療法選択	脳卒中の病態と治療①	講義	関連論文の検索と要約	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
11		脳卒中の病態と治療②	講義	関連論文の検索と要約	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
12		脊髄損傷の病態と治療	講義	関連論文の検索と要約	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
13		パーキンソン病の病態と治療	講義	関連論文の検索と要約	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
14		多発性硬化症の病態と治療	講義	関連論文の検索と要約	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎

15		最新の理学療法知見	講義	関連論文の検索と要約	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
日付					

教科書	指定なし
参考書	リハビリテーションのための臨床神経生理学（編集：正門由久、中外医学社） 神経科学の最前線とリハビリテーション—脳の可塑性と運動（監修：里宇明元、医歯薬出版）
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木 克彦：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	実施日程は、受講者と協議して決定する

授業科目	神経機能理学療法学特論演習	科目英語表記	Applied Physical Therapy in Neuromuscular Function		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 講師 鈴木栄三郎				
科目責任者氏名	鈴木 克彦				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	神経機能理学療法学特論をもとに具体的な実践能力を修得するための演習を行う				
到達目標	1. 神経生理学的評価の意味と意義を説明することができる 2. 神経生理学的評価の手法について準備および実施することができる 3. 理学療法による神経機能の回復効果のメカニズムを説明することができる				
成績評価方法	授業への参加度 10% 到達目標1、2、3を評価 輪読会への参加度 10% 到達目標1、2、3を評価 プレゼンテーション 30% 到達目標1、3を評価 実技 50% 到達目標2を評価				
成績評価基準	到達目標1、3 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない 到達目標2 特に優れている；適切で十分に高い精度で実施できる 優れている；十分に高い精度で実施できる 良好である；ある程度の精度で実施できる 最低限の到達；低い精度であるが実施できる 目標に到達していない；実施できない				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	神経生理学的評価の実技と解析	経頭蓋磁気刺激 (MEP・SICI・ICFなど) ①	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
2		経頭蓋磁気刺激 (MEP・SICI・ICFなど) ②	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
3		経頭蓋磁気刺激 (MEP・SICI・ICFなど) ③	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
4		誘発筋電図 (H反射・M波・F波など) ①	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
5		誘発筋電図 (H反射・M波・F波など) ②	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
6		誘発筋電図 (H反射・M波・F波など) ③	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
7		脳波 (SEPなど) ①	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
8		脳波 (SEPなど) ②	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
9		脳波 (SEPなど) ③	演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
10	介入課題の立案	介入：運動学習課題①	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎

11		介入：運動学習課題②	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
12		介入：運動学習課題③	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
13		介入：非侵襲的脳刺激法 (rTMS、tDCSなど) ①	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
14		介入：非侵襲的脳刺激法 (rTMS、tDCSなど) ②	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
15		介入：非侵襲的脳刺激法 (rTMS、tDCSなど) ③	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
16		介入：末梢神経刺激 (TES、 rPMSなど) ①	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
17		介入：末梢神経刺激 (TES、 rPMSなど) ②	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
18		介入：末梢神経刺激 (TES、 rPMSなど) ③	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
19		介入：振動刺激①	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
20		介入：振動刺激②	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
21		介入：振動刺激③	講義、演習、討論	データ解析	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
22	介入前後での効果判定 およびメカニズムの検証	介入および神経生理学的評価 の結果の発表①	講義、討論	データ解析・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
23		介入および神経生理学的評価 の結果の発表②	講義、討論	データ解析・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
24		介入および神経生理学的評価 の結果の発表③	講義、討論	データ解析・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
25	グローバル基準での 基礎および最新知識 の習得	関連分野の洋書の輪読①	講義、討論	担当箇所の翻訳・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
26		関連分野の洋書の輪読②	講義、討論	担当箇所の翻訳・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
27		関連分野の洋書の輪読③	講義、討論	担当箇所の翻訳・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
28		関連分野の洋書の輪読④	講義、討論	担当箇所の翻訳・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
29		関連分野の洋書の輪読⑤	講義、討論	担当箇所の翻訳・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
30		関連分野の洋書の輪読⑥	講義、討論	担当箇所の翻訳・資料作成	鈴木 克彦 鈴木 栄三郎
日付					

教科書	指定なし
参考書	リハビリテーションのための臨床神経生理学（編集：正門由久、中外医学社） 神経科学の最前線とリハビリテーション—脳の可塑性と運動（監修：里宇明元、医歯薬出版） The Circuitry of the Human Spinal Cord: Spinal and Corticospinal Mechanisms of Movement（著者：Emmanuel Pierrot-Deseilligny、 David Burke、Cambridge University Press） 輪読会洋書：授業中に指定する
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある 教員	

実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木 克彦：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	実施日程は、受講者と協議して決定する。

授業科目	運動障がいリハビリテーション学特論	科目英語表記	Orthopedics and Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	教授 村 成幸 講師 室伏祐介				
科目責任者氏名	村 成幸				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	加齢に伴う運動器の動態や運動器障がいの病態を把握するための最新の客観的評価方法について教授する				
到達目標	①画像（X線、MRI、CTおよび超音波）診断の測定・解析方法を説明できる ②加齢的变化に起因する運動障がいの画像解析が説明できる ③解剖学的変異（variation）が運動障がいの発生の原因と成り得る事を説明できる				
成績評価方法	代表的な画像（X線、MRI、CTおよび超音波）診断ができること(50%)、および解剖学的変異（variation）と運動障がいの関係を説明できる(50%)ことを評価基準とする				
成績評価基準	到達目標①、②、③を評価 ① 代表的な画像（X線、MRI、CTおよび超音波）診断ができる 特に優れている：運動器疾患の画像診断ができ、それを説明できる。 優れている：代表的な運動器疾患の画像診断ができる。 良好である：代表的な運動器疾患の画像診断がある程度できる。 最低限の到達：代表的な運動器疾患の画像所見が理解できる。 目標に到達していない：代表的な運動器疾患の画像所見を全く理解できない ② 解剖学的変異（variation）と運動障がいの関係を説明できる 特に優れている：解剖学的変異（variation）と運動障がいの関係を説明できる 優れている：解剖学的変異（variation）と運動障がいの関係にある程度説明できる 良好である：解剖学的変異（variation）と運動障がいの違いを説明できる 最低限の到達：解剖学的変異（variation）と運動障がいの違いが理解できる 目標に到達していない：解剖学的変異（variation）と運動障がいの違いが理解できない				
授業形式	講義 討論				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	画像（MRI、CTおよび超音波）の原理	画像（MRI、CTおよび超音波）の原理について講義し、画像診断の基礎を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終えておくこと	村 成幸 室伏祐介
2	画像（MRI、CTおよび超音波）の原理	画像（MRI、CTおよび超音波）の原理について講義し、画像診断の基礎を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終えておくこと	村 成幸 室伏祐介
3	画像（MRI、CTおよび超音波）の原理	画像（MRI、CTおよび超音波）の原理について講義し、画像診断の基礎を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終えておくこと	村 成幸 室伏祐介
4	画像（MRI、CTおよび超音波）の原理	画像（MRI、CTおよび超音波）の原理について講義し、画像診断の基礎を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終えておくこと	村 成幸 室伏祐介
5	画像（MRI、CTおよび超音波）診断法	典型的な運動器障がいの画像（MRI、CTおよび超音波）を提示し、診断に至る根拠を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終えておくこと	村 成幸 室伏祐介
6	画像（MRI、CTおよび超音波）診断法	典型的な運動器障がいの画像（MRI、CTおよび超音波）を提示し、診断に至る根拠を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終えておくこと	村 成幸 室伏祐介
7	画像（MRI、CTおよび超音波）診断法	典型的な運動器障がいの画像（MRI、CTおよび超音波）を提示し、診断に至る根拠を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終えておくこと	村 成幸 室伏祐介

8	画像（MRI、CTおよび超音波）診断法	典型的な運動器障がいの画像（MRI、CTおよび超音波）を提示し、診断に至る根拠を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終わっておくこと	村 成幸 室伏祐介
9	画像（MRI、CTおよび超音波）診断法	典型的な運動器障がいの画像（MRI、CTおよび超音波）を提示し、診断に至る根拠を学習する	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終わっておくこと	村 成幸 室伏祐介
10	解剖学的variation	運動器の解剖学的variationを講義して、画像（X線、CT、MRI、超音波）上の特徴を学習する。	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終わっておくこと	村 成幸 室伏祐介
11	解剖学的variation	運動器の解剖学的variationを講義して、画像（X線、CT、MRI、超音波）上の特徴を学習する。	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終わっておくこと	村 成幸 室伏祐介
12	解剖学的variation	運動器の解剖学的variationを講義して、画像（X線、CT、MRI、超音波）上の特徴を学習する。	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終わっておくこと	村 成幸 室伏祐介
13	解剖学的variation	運動器の解剖学的variationを講義して、画像（X線、CT、MRI、超音波）上の特徴を学習する。	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終わっておくこと	村 成幸 室伏祐介
14	解剖学的variationの表現系（機能）	運動器の解剖学的variationを講義して、画像（X線、CT、MRI、超音波）上の特徴を学習する。	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終わっておくこと	村 成幸 室伏祐介
15	解剖学的variationの表現系（機能）	運動器の解剖学的variationを講義して、画像（X線、CT、MRI、超音波）上の特徴を学習する。	講義 討論	学部で使用した教科書等で基本的な知識の復習は終わっておくこと	村 成幸 室伏祐介
日付					

教科書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	村：研究室35 nmura@yachts.ac.jp 室伏：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	運動障がいリハビリテーション学特論演習		科目英語表記	Applied Orthopedics and Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	教授 村 成幸 講師 室伏祐介					
科目責任者氏名	村 成幸					
学内連絡教員氏名						
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	4単位	
授業概要	加齢に伴う運動器の動態や運動障がいの病態を把握するため超音波診断を用いたり、肉眼解剖を通してリハビリテーション研究に生かす方法を探求する					
到達目標	①超音波診断の測定・解析方法を習得し、解剖学的変異（variation）加齢変化を理解できること ②超音波診断装置を用いた筋・腱の性状の生理学的・運動学的解析法を身に着けること ③解剖学的変異（variation）加齢変化を理解し、リハビリテーションに応用できること					
成績評価方法	ひとつの仮説から研究を計画し(50%)、実際に調査研究を行い、一定の結果を得る(50%)ことを評価基準とする。					
成績評価基準	到達目標 ①～③ 特に優れている：仮説を着想し、実際に調査研究を行い、結果を得、抄録を作成できる。 優れている：仮説を着想し、実際に調査研究を行い、結果を得ることができる。 良好である：仮説を着想し、実際に調査研究を行うことができる。 最低限の到達：仮説を着想することができる。 目標に到達していない：仮説を着想することができない。					
授業形式	演習 実習 討論					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	頸部の解剖学的variationの検索	頸部の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探求する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
2	頸部の超音波診断法	頸部の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探求する	頸部の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
3	背部の解剖学的variationの検索	背部の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探求する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
4	背部の超音波診断法	背部の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探求する	背部の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
5	腰部の解剖学的variationの検索	腰部の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探求する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
6	腰部の超音波診断法	腰部の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探求する	腰部の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
7	肩甲帯・肩関節の解剖学的variationの検索	肩甲帯・肩関節の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探求する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
8	肩甲帯・肩関節の超音波診断法	肩甲帯・肩関節の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探求する	肩甲帯・肩関節の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介

9	上腕・肘関節の解剖学的variationの検索	上腕・肘関節の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
10	上腕・肘関節の超音波診断法	上腕・肘関節の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探索する	上腕・肘関節の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
11	前腕・手関節の解剖学的variationの検索	前腕・手関節の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
12	前腕・手関節の超音波診断法	前腕・手関節の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探索する	前腕・手関節の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
13	手の解剖学的variationの検索	手の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
14	手の超音波診断法	手の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探索する	手の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
15	骨盤・股関節腹側の解剖学的variationの検索	骨盤・股関節腹側の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
16	骨盤・股関節腹側の超音波診断法	骨盤・股関節腹側の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探索する	骨盤・股関節腹側の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
17	骨盤・股関節背側の解剖学的variationの検索	骨盤・股関節背側の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
18	骨盤・股関節背側の超音波診断法	骨盤・股関節背側の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探索する	骨盤・股関節背側の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
19	大腿の解剖学的variationの検索	大腿の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
20	大腿の超音波診断法	大腿の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探索する	大腿の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
21	膝関節の解剖学的variationの検索	膝関節の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
22	膝関節の超音波診断法	膝関節の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探索する	膝関節の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
23	下腿の解剖学的variationの検索	下腿の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
24	下腿の超音波診断法	下腿の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探索する	下腿の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介
25	足関節の解剖学的variationの検索	足関節の解剖を行い、過去の文献を検索し、新知見が得られる可能性を探索する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸	室伏祐介
26	足関節の超音波診断法	足関節の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関	足関節の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸	室伏祐介

		連と運動学的解析法を探究する			
27	足の解剖学的 variation の検索	足の解剖を行い、過去の文献を検索し、新発見が得られる可能性を探究する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸 室伏祐介
28	足の超音波診断法	足の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探究する	足の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸 室伏祐介
29	腋窩部の解剖学的 variation の検索	腋窩部の解剖を行い、過去の文献を検索し、新発見が得られる可能性を探究する	解剖学実習	常に自分で探求心をもって文献検索を行い、解剖学の復習を行う	村 成幸 室伏祐介
30	腋窩部の超音波診断法	腋窩部の超音波診断法を習得し、頸部の運動器疾患との関連と運動学的解析法を探究する	腋窩部の超音波診断法演習	常に自分で探求心をもって文献検索と文献渉猟を行う	村 成幸 室伏祐介

日付

教科書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	村：研究室35 nmura@yachts.ac.jp 室伏：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	理学療法学特別研究		科目英語表記	Specialized Graduate Research in Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩 教授 鈴木 克彦 教授 村 成幸 教授 石川 仁 教授 渡部 潤一 准教授 南澤 忠儀 講師 室伏 祐介					
科目責任者氏名	加藤 浩					
学内連絡教員氏名						
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年／博士前期2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	必修			
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	10単位	
授業概要	理学療法分野のいずれかの領域から、院生が選択した研究課題について、研究のプロセスを踏んで、修士論文を作成する。					
到達目標	① 理学療法（学）に関わる諸問題に深い関心を持ち、その解決に向けて自ら積極的に行動できる。 ② 理学療法に関連する国際レベルの情報を収集し、批判的吟味ができる。 ③ 自らの課題を検証するための研究計画を立案し、実行することができる。 ④ 実験や調査で得られた情報を適切に分析・考察し、目的に沿った結論を導き出すことができる。 ⑤ 研究の実施に当たり、人や動物に対する倫理的配慮ができる。 ⑥ 論文審査において、審査委員からの指摘に的確に対応できる。 ⑦ 修士論文を作成し、研究成果を的確に表現し発表できる。					
成績評価方法	授業への参加度：40% [到達目標 ①を評価] 研究の実施、論文作成、および発表：60% [到達目標 ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦を評価]					
成績評価基準	到達目標 ① 特に優れている：議論に必要な資料が十分準備され、積極的な発言により議論の深化に大きく貢献できる。 優れている：議論に必要な資料が十分準備され、積極的な発言により議論の深化に概ね貢献できる。 良好である：議論に必要な資料がある程度準備され、ある程度の発言により議論の深化に概ね貢献できる。 最低限の到達：議論に必要な資料に不足はあるが、ある程度の発言により議論の深化に一部貢献できる。 目標に到達していない：議論の深化に貢献できない。 到達目標 ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦ 特に優れている：倫理的配慮がなされた研究を実施し、論文の作成と研究成果の的確な発表が十分にできる。 優れている：倫理的配慮がなされた研究を実施し、論文の作成と研究成果の的確な発表が概ね十分にできる。 良好である：倫理的配慮がなされた研究を実施し、論文の作成と研究成果の的確な発表がある程度できる。 最低限の到達：倫理的配慮がなされた研究を実施し、一部不十分な所はあるが、論文の作成と研究成果の発表がある程度できる。 目標に到達していない：倫理的配慮がなされた研究の実施と論文の作成と発表ができない。					
授業形式	授業は対面授業と遠隔授業のハイブリッド形式で行います。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	1. 研究計画書の作成 2. 研究の実施 3. 研究のまとめ	院生が選択した研究内容に応じて、教員が研究指導チームを編成して以下の指導を行う。 1. 研究計画書の作成では、研究テーマの設定、研究の背景と目的、根拠のある仮説の設定、妥当な実験・調査方法、適切なデータの解析方法について講義（指導）を行う。 2. 研究の実施では、対象者の選択と協力要請、実験や調査の実施、研究結果の解析、目的・仮説に対応した考察、結論の導出について講義（指導）を行う。 3. 研究のまとめでは、修士	研究 プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 授業内で取り上げる議論の内容をピックアップし、資料を作成し準備すること。また、データ計測を実施する場合は、機器の使用法や計測の手順等について事前に確認しておくこと。 復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べること。また、計測したデータを見直し、適切にデータ収集が行えているかを確認しておくこと。	全員

	論文の作成，発表準備の指導を行う。		
--	-------------------	--	--

教科書	
参考書	授業に必要な資料は，適宜，配布，または指示する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩 : 研究室36 hikato@yachts.ac.jp 鈴木 克彦 : 研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 石川 仁 : 研究室24 hishikawa@yachts.ac.jp 村 成幸 : 研究室35 nmura@yachts.ac.jp 渡部 潤一 : 研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp 南澤 忠儀 : 研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp 室伏 祐介 : 研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp
備考	講義日程は，受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので，事前にご相談ください。